

棚尾地区まちづくり事業

平成 25 年 1 月 23 日（水）19 時～

棚尾公民館 3 階

## 第 19 回 棚尾の歴史を語る会 次第

進行（小笠原幸雄）

1 前回までのテーマに関する参考意見など

貝殻合わせ、区画整理、お医者さん、小谷がつぼ など

2 テーマ 36 「平岩種治郎」

(1) 説明（豆田誠路）

(2) 出席者による補足説明、感想など

3 テーマ 37 「棚尾小学校木造校舎の歴史」

(1) 説明（杉浦光雄）

(2) 出席者による補足説明、感想など

4 連絡事項・情報交換など

5 次回日程

第 20 回 2 月 20 日（水）午後 7 時～

「棚尾神社と忠魂碑」「味りん造り」

第 21 回 3 月 21 日（木）午後 7 時～

「杉浦宗京氏の土風呂（どぶろ）」「源氏と長田氏」

棚尾の歴史を語る会 テーマ36

常設展「碧南の歴史と文化」

24年度一Ⅲ期 碧南の人物3

ひらいわ たねじ ろう  
平岩 種治郎



今回は、国産第一号の四幅式毛織機を開発し、また地域経済界の重鎮であった平岩種治郎をご紹介します。

平岩種治郎は、明治13年（1880）碧海郡棚尾村生まれ。文化5年（1868）に農機具の製造を始めた「かじ幸」の家に生まれました。鉄工場の近代化に着手した父を継ぎ、明治30年（1897）にはガス発動機の製造に着手、大正時代に入り綿織物の織機に目を向けるようになりました。大正3年（1914）には国産第一号の四幅式毛織機を製作、尾西地方の毛織物工業の発展に役割を果たしました。

また、大浜臨港線運送株式会社社長を務めたり、昭和24年（1949）には碧南商工会議所（任意団体）初代会頭に就任するなど、地域経済界の重鎮でした。

そこで、本展では織機製作を中心とした平岩種治郎の事績をご紹介しますことと致しました。国産第一号の四幅式毛織機を開発し、また地域経済界の重鎮としての事績の一端をご覧いただければ幸いです。

なお、本展の実施にあたり、貴重な資料を快くご出品いただきました株式会社平岩鉄工所様、鈴木貴詞様に厚く御礼申し上げます。

会期：平成24年10月27日（土）～平成25年1月27日（日）※一部展示替有り

会場：碧南市藤井達吉現代美術館 地下1階 情報コーナー

主催：碧南市教育委員会

## 展示資料

### 1 平岩種治郎肖像画

藪野正雄

昭和 22 年(1947)

カンヴァス、油彩

53.0×45.0cm

株式会社平岩鉄工所所蔵



### 2 古写真 平岩鉄工所の様子(パネル展示)

大正 3 年(1914)

(写真提供 株式会社平岩鉄工所)



### 3 古写真 明治 43 年(1910)頃の平岩鉄工場

(パネル展示)

明治 43 年(1910)頃

(写真提供 株式会社平岩鉄工所)

自転車の後ろ、向かって右が種治郎、中央を挟んで左が父幸左エ門。最後列中央の左の女性が妻志ん、右が母ちら。明治 30 年(1897)頃の記録では、平岩鉄工場(当時の名称)は職工 25 人を抱える工場であった。

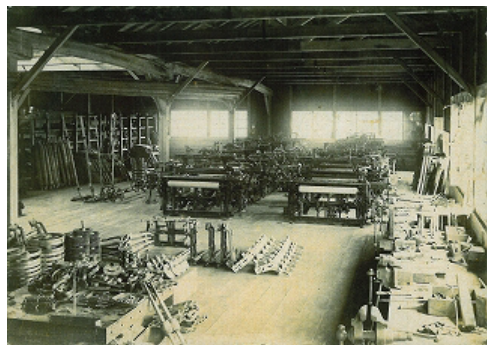


### 4 古写真 大正時代の平岩鉄工所(パネル展示)

大正時代

(写真提供 株式会社平岩鉄工所)

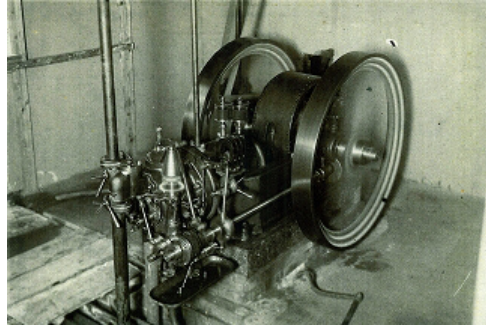
これまでガス発動機を製造していた種治郎は時代の趨勢を捉え織機の製造に転換していく。写真は、織機の製造する鉄工所の様子を捉えたものである。



5 古写真 種治郎が開発したガス発動機

(パネル展示)

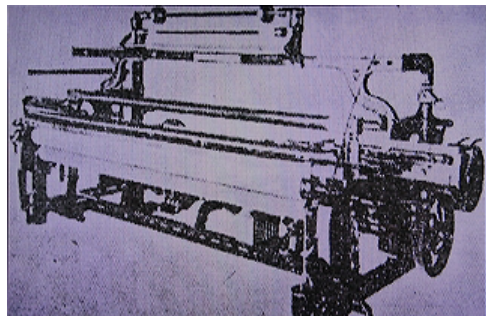
(写真提供 株式会社平岩鉄工所)



父幸左エ門が導入した手回し式旋盤を使って石油・ガス発動機の製造を始めた。明治30年(1897)、まだ17歳だった種治郎が父に代わり実質的に着手したものである。この発動機は知多の機屋などに納められた。

6 国産第一号の四幅式毛織機(パネル展示)

(写真提供 株式会社平岩鉄工所)



四幅式毛織機

大正3年(1914)第一次世界大戦が勃発、四幅式毛織機の輸入が途絶えた。繊維製品輸入商で最大手の問屋・芝川商会は亀崎の機屋・竹内昇亀氏を通じて種治郎に織機の製作を依頼した。種治郎は四幅織機の実物見本の提供と責任注文100台の条件を承諾し、四幅式毛織機を完成させた。この毛織機は尾西地方の機業家を中心に広がり、同地方の毛織物業が発展することとなった。

7 「故渡邊秀治君之碑」と 8 碑文裏面 (パネル展示)

大浜臨港線の建設に功績があった渡邊秀治氏(千葉県出身、享年57歳)を顕彰する碑。その裏面に「大浜臨港線運送株式会社 社長 平岩種治郎」とあり、同社の社長として地域経済界に大きな役割を果たしていたことが伺える。なお昭和24年(1949)には碧南の商工会議所(任意団体)の初代会頭に就任している。

碑文裏面



「故渡邊秀治君之碑」

(碧南市岬町・一ツ橋ポンプ場内)

大浜臨港線運送株式会社  
社長  
平岩種治郎



9 平岩種治郎氏社葬に参列した藤井達吉

(パネル展示)

昭和 27 年(1952)

(写真提供 株式会社平岩鉄工所)



平岩種治郎は昭和 27 年(1952)10 月 31 日に死去した(享年 74 歳)。同年 11 月 4 日社葬が行われ、当館の館名に冠されている藤井達吉が参列した。藤井達吉は棚尾の尋常小学校で種治郎の一年後輩であった。

10 印半纏

株式会社平岩鉄工所所蔵



11 平岩種治郎胸像

昭和 29 年(1954)

H69.3×W37.5×D32.0cm

株式会社平岩鉄工所所蔵

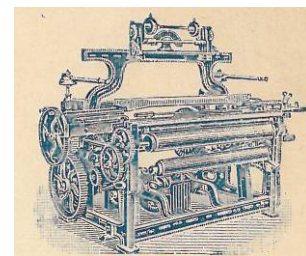


胸像の背に刻まれている文字より、昭和 29 年(1954)に株式会社平岩鉄工所の従業員一同が寄贈したことが分かる。

12 平岩鉄工所便箋に印刷された、初期に製作されたとみられる織機の図柄(パネル展示)

(画像提供 鈴木貴詞氏)

平岩鉄工所製作の織機を購入していた旧鈴鎌毛織工場(現一宮市)に残された便箋の図柄。大正 6 年(1917)6 月から大正 8 年(1919)1 月まで使用の便箋にこの織機の図柄が印刷されている。平岩鉄工所で初期に製作されたとみられる織機の図柄である。



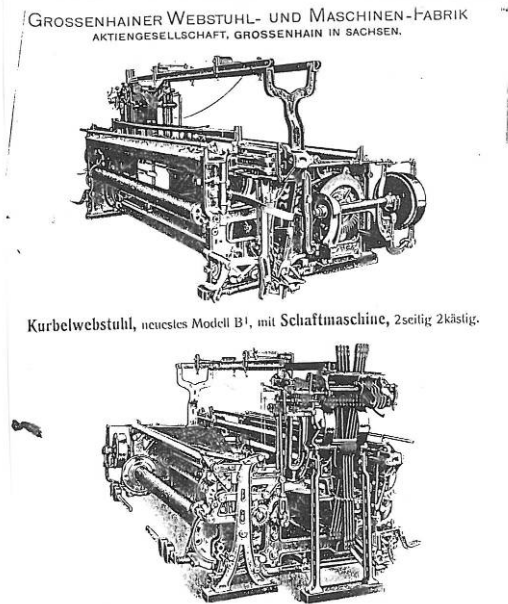
13 ドイツの織物器機会社製作による織機の図版  
(パネル展示) (画像提供 鈴木貴詞氏)

平岩鉄工所では、ジョージホジソン製(イギリス)のほか、このドイツ製の織機などを借り受け、解体して研究し国産の毛織機を製作した。イギリス人やドイツ人の体格に合わせて造られた機械を日本人の体格に合わせたものに造り替えることが求められた。ただ、織機の構造は1か所でも変えるとすべてを変えることになるため、改良には相当の苦心がなされたとみられる。

【翻訳】(訳・浅野泰子)

(上)グロッセンハインの織機及び機械製造所 株式会社,ザクセンのグロッセンハイン

(下)クランク式織機,最新モデルB,2本索・2ボックスの軸機械付き



14 鈴鎌毛織工場で使用された平岩式鉄製広幅織機  
(パネル展示) (画像提供 鈴木貴詞氏)

大正10年(1921)過ぎ、旧鈴鎌毛織工場(現一宮市)で使用された織機の写真。写真左の織機が、左のパンフレットにある「平岩式鉄製広幅織機 箴巾八十吋(インチ)」であるとみられる(パンフレットの織機と写真の織機は向きが反対向き)。



15 平岩式毛織機パンフレット

鈴木貴詞氏 所蔵



パンフレット「平岩種治郎」

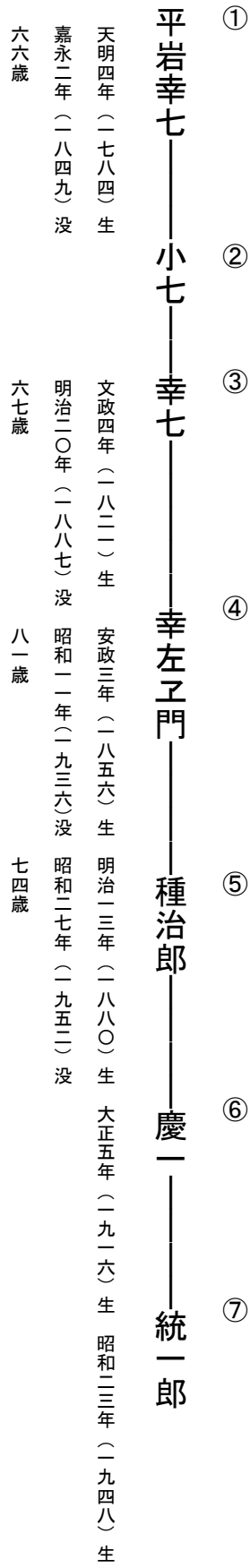
○発行 碧南市教育委員会文化財課 ○発行日 平成24年10月27日

■平岩種治郎年表

昭和27年	昭和25年	昭和24年	昭和24年	昭和22年	昭和20年	昭和18年	昭和17年	昭和14年	昭和13年	昭和12年	昭和11年	昭和9年	昭和5年	昭和3年	昭和2年	大正11年	大正5年	大正5年	大正3年	明治39年	明治30年	明治23年	明治13年	和暦		
1952	1950	1949	1949	1947	1945	1943	1942	1939	1938	1937	1936	1934	1930	1928	1927	1922	1916	1916	1914	1906	1897	1890	1880	西暦		
74	72	71	71	69	67	65	64	61	60	59	58	56	52	50	49	44	38	38	36	28	19	12	1	年齢 (数え)		
十月三十一日死去。十一月四日社葬。	株式会社組織変更、社長に就任。	HBC型織機完成。箆保持装置の特許取得。	碧南商工会議所（任意団体）初代会頭に就任。	厚物の高級毛織物を織るHES型、4×4丁杼織機完成。	織機製造を再開。	この頃海軍省艦政本部の三社合併要請を断る。	織機製造中止、工作機械に専念。	私立平岩青年学校を開設。毛織機を製造しつつ工作機械の製造を始める。	棚尾町の学務委員を務める。	H型広幅織機完成。	名古屋汎太平洋博覧会へ出品、金牌受賞。	陸軍千住製作所に外套用の厚手の生地を織るHE型毛織機を納入。	棚尾町会議員に選出される。	御大典奉祝名古屋博覧会に出品、金牌受賞。	国産振興染織工業博覧会に出品、優良国産品賞を受賞。	東京平和博覧会に出品、褒賞を受ける。	長男慶一（六代目）誕生。	国産初の四幅式毛織機完成。	ジャキンソン（英国）の二幅綿織機を製造。この頃「平岩鉄工所」に改称。	志人と結婚	石油・ガス発動機の製造に着手。この頃から幸左工門に代わり家業をまかせられていたという。またこの頃屋号を「平岩鉄工場」に改称。	高等小学校中退。十四五歳から父の火造りの仕事を手伝うようになる。	棚尾の尋常小学校を卒業。半田の高等小学校に進学。	父幸左工門、手回し式旋盤を購入し工場の近代化に着手。	父幸左工門、母ちらの長男として生まれる。	事柄

平岩慶一『碧南の風』二〇〇一年より作成

■平岩家略系図





## 「棚尾小学校木造校舎の歴史」

### ① 開校

明治5年11月8日妙福寺境内に**棚尾郷学校**開校。明治6年8月15日**棚尾学校**と改称。

北棚尾の児童は浜尾学校（精界寺境内）へ、中山の児童は伏見屋学校（伏見屋説教場内）へ通学。伏見屋学校廃校に伴い、中山の児童は棚尾学校へ通う。（明治19年頃か）

明治19年**尋常小学棚尾学校**と改称。

明治29年6月11日**棚尾尋常高等小学校**と改称。

明治25年7月16日開校の啓成高等小学校（伏見屋説教場内）が、明治29年6月廃校。

### ② 校舎善明坂（現在地）へ移転

明治29年4月校舎新築の手続き始まる。

明治29年7月新校舎敷地上屋敷と決定。用地3反13歩（村共有地）。狭隘ということで問題となる。

明治29年8月新校舎建築資金寄附活動始まる。（合計金3988円31銭5厘）

明治32年12月新校舎敷地善明坂と決定す。

明治34年5月新校舎に移転。

第1校舎 第2校舎 職員室、応接室、その他附属施設

尋常科 529名 9学級

高等科 69名 3学級

教師 12名

大正10年8月校舎の増改築。

大正11年9月学校敷地増加内申書郡長へ提出。（4反6畝2歩）

大正14年児童数903名

③ 棚尾小学校第1校舎大火

昭和8年2月2日午前2時30分第1校舎西南より出火。宿直員岩月信蔵氏発見するや直ちに御真影を保護し奉り、隣家の人を起こし、役場の宿直員石川氏を起こし、学校火災の由を告げ、御真影を八柱神社迄御奉遷申上げた。午前3時頃より消防隊・各町民出動し防火に努めたれ共、何分火勢強く防火に全力を尽くせ共、残念にも右建物を全焼し午前5時鎮火したり。

全焼校舎1棟 223坪 唱歌室1棟 39坪 応接室及宿直室 9坪  
小使室及便所 7坪 廊下 9坪

尚此の外全焼したるものは、図書・重要書類・器具等にして損害大なり。火災直後、町民及び各地の卒業生による募金活動が始まった。なお、当時の校長は市古節太郎氏で、事後処理のため過労となり倒れて、昭和13年11月亡くなった。

④ 第1校舎の再建、第2校舎の移築改修と2教室増築

総工費32998円（資料により異なる）

第2校舎を第3校舎の裏に移築改修する。

第3校舎の南西に2教室増築する。

この結果、第2校舎が第3校舎となり、第3校舎が第2校舎となった。

奉安殿の新築 名古屋市西区西柳町小笠原十太郎氏の寄附金による。

⑤ 昭和16年4月**国民学校**と改称。

第4校舎が出来る。太平洋戦争中？の増築か。

昭和22年六・三制公布。**棚尾小学校**と改称。

昭和42年3月鉄筋コンクリート3階校舎出来る。

昭和56年？ 棚尾小学校鉄筋コンクリート3階校舎増築竣工。（棚尾小学校より木造校舎消える）

明治29年8月

棚尾村立棚尾尋常高等小学校新築寄付金人名簿

愛知県碧海郡棚尾村

(横に続けて読む)

長田 善三郎	小笠原 文右エ門	長田 茂左エ門	長田 助治郎
長田 徳太郎	長田 佳松	鳥居 勘蔵	長田 利吉
杉浦 権次郎	長田 源治郎	長田 半十	永坂 柘太郎
藤井 忠三郎	藤井 重二郎	亀島 久八	長田 惣右エ門
長田 仁平	永井 嘉太郎	澤田 又右エ門	山口 太治郎
斎藤 庄作	生田 助吉	石川 重吉	長田 助八
澤田 甚四郎	小高 半助	斎藤 瀧三郎	小澤 榮七
中野 與次郎	生田 岩吉	石川 豊蔵	永坂 文助
生田 嘉七	永坂 曾一	名倉 かづ	鳥居 好松
永坂 甚助	長田 牧右エ門	杉浦 安蔵	稲垣 長兵衛
杉浦 為蔵	長田 竹蔵	黒田 庄蔵	長田 勘四郎
長田 増太郎	長田 八造	斎藤 茂七	小澤 直蔵
清水 菊之助	角谷 亀吉	小澤 新助	長崎 米吉
斎藤 幹作	斎藤 兼平	斎藤 倭一郎	長田 曾七
糟 助太郎	鈴木 蜜蔵	斎藤 量太郎	藤井 安二郎
斎藤 倭二郎	金原 久右エ門	金原 徳二郎	井浪 彦平
竹内 久吉	生田 みき	石川 九造	榊原 用造
榊原 源十	斎藤 周助	斎藤 勇助	杉浦 輪三郎
杉浦 金太郎	杉浦 梅之助	太田 武右エ門	柳瀬 欽哉
黒田 とく	長崎 榮三郎	杉浦 實次郎	榊原 和市
長崎 文十	長崎 長次郎	鳥居 藤右エ門	永坂 吉蔵
永坂 辰蔵	杉浦 孫七	斎藤 半右エ門	斎藤 勝助
長田 兵右エ門	長田 幸十	斎藤 八三郎	斎藤 梅太郎
名倉 せき	榊原 とく	古久根 かね	澤田 初太郎
斎藤 増蔵	金原 八左エ門	近藤 せん	永坂 吉十
生田 竹四郎	長田 兵次郎	川出 六三郎	井上 富次郎
鈴木 佐吉	古久根 専蔵	永坂 初太郎	生田 甚蔵
杉浦 文助	金原 市三郎	杉浦 長十	長田 松右エ門
生田 由太郎	杉浦 和三郎	小川 勇一郎	村松 栄次郎
斎藤 新吉	永井 嘉四郎	成瀬 徳平	杉浦 初五郎

杉浦 末吉	齋藤 徳右工門	榊原 治郎吉	米津 徳太郎
生田 市松	杉浦 由太郎	金原 富太郎	齋藤 初太郎
名倉 孝学	杉浦 勇三郎	杉浦 周蔵	榊原 榮八
小澤 又吉	生田 善太郎	長田 新六	井上 末吉
永坂 梅吉	長田 岩吉	杉浦 久助	加藤 鐵五郎
榊原 一待	杉浦 松蔵	古久根 木八	榊原 治郎吉
池田 十松	井上 長四郎	井上 梅三郎	三島 堅二郎
清水 新七	杉浦 勇助	杉浦 曾市	杉浦 浅吉
齋藤 文三郎	生田 十治郎	齋藤 やよ	小笠原 四之助
榊原 源三郎	杉浦 清蔵	齋藤 松次郎	井上 嘉市
永井 松太郎	小笠原 由右工門	金原 吉平	生田 松三郎
齋藤 由蔵	加藤 忠三郎	生田 亀太郎	長田 為蔵
小笠原 治助	齋藤 豊吉	生田 松四郎	杉浦 為七
長崎 蓮治郎	井上 與助	井上 勝三郎	小笠原 仁三郎
杉浦 百太郎	永井 徳太郎	名倉 安次郎	杉浦 應三郎
長崎 長七	生田 新助	杉浦 助蔵	齋藤 米太郎
齋藤 卯三郎	齋藤 常三郎	永井 中兵衛	齋藤 兼吉
井上 榮蔵	齋藤 友七	齋藤 岩助	小笠原 藤十
永坂 喜蔵	齋藤 勘次郎	鳥居 勘十	齋藤 留吉
鈴木 辰造	鈴木 千松	井上 與平	金原 文十
齋藤 くま	生田 新九郎	齋藤 勘四郎	杉浦 浅次郎
井上 太七	永坂 由平	黒田 光太郎	杉浦 辰次郎
榊原 時治郎	名倉 吉五郎	杉邨 修平	生田 喜兵衛
小笠原 惣十	生田 市松	清水 千治郎	齋藤 寅吉
三島 惣左工門	小笠原 竹次郎	樹神 松五郎	齋藤 源待
小林 安蔵	齋藤 新吉	齋藤 嘉蔵	長田 長造
高木 謙敬	須田 半助	永井 勝治	杉浦 林平
齋藤 庄治郎	生田 源七	深井 みつ	坂部 坂次郎
杉浦 茂七	齋藤 和三郎	佐野 良契	坂野 善十
古久根 菊松	井上 甚七	小笠原 甚三郎	長崎 廣三郎
齋藤 為助	小澤 源四郎	杉浦 宗七	杉浦 太吉
古久根 浪蔵	齋藤 甚右工門	榊原 嘉一	杉浦 勘兵衛
齋藤 安蔵	齋藤 源之助	杉浦 愛助	生田 評太郎
杉浦 松四郎	小澤 用蔵	齋藤 徳太郎	石川 半左工門
齋藤 〇七	齋藤 富三郎	齋藤 安平	山田 瀧蔵
杉浦 十三郎	永坂 昇太郎	齋藤 倉吉	金原 利左工門
金原 勇七	石川 十治郎	生田 弥曾松	杉浦 喜蔵
名倉 吉待	齋藤 甚六	名倉 吉三郎	榊原 秋太郎

杉浦 嘉之助	井上 新六	齋藤 乙四郎	杉浦 菊市
齋藤 安平	齋藤 松右エ門	名倉 吉治郎	名倉 秀平
名倉 源十	清水 勇三郎	齋藤 常吉	杉浦 林七
杉浦 とく	齋藤 順太郎	榊原 文三郎	杉浦 重松
小笠原 寿市	齋藤 弥七	齋藤 弥十	杉浦 彦助
清水 安太郎	齋藤 廣吉	名倉 吉十	名倉 傳七
齋藤 友三郎	生田 幸四郎	小嶋 竹治郎	永坂 常治郎
長田 半三郎	小笠原 いち	生田 柳三郎	生田 源七
小笠原 米蔵	齋藤 文六	齋藤 仙十	榊原 昇平
小浦 とせ	石川 久太郎	齋藤 吉太郎	齋藤 太助
井上 利三郎	井上 甚吉	井上 仙蔵	杉浦 幸十
齋藤 六右エ門	齋藤 吉二郎	齋藤 安之助	長崎 竹三郎
石川 甚助	永坂 鍊之助	金原 庄助	永坂 小三郎
古久根 利助	永坂 五平	永坂 小兵衛	永坂 清吉
長崎 七五郎	清水 げん	永坂 文六	杉浦 弥三郎
杉浦 弥十	杉浦 弥七	古久根 木十	榊原 徳蔵
小澤 鍊五郎	杉浦 栄十	永坂 由三郎	石川 新六
古久根 たき	古久根 皆蔵	永坂 六三郎	杉浦 勘七
杉浦 治郎吉	永坂 重太郎	榊原 一待	永坂 節三郎
永坂 八百蔵	永坂 松次郎	永坂 福太郎	古久根 利兵衛
古久根 勝太郎	金原 定四郎	永坂 奎兵衛	永坂 梅吉
生田 みょう	生田 清治郎	黒田 利助	小澤 常平
古久根 利三郎	齋藤 浅治郎	杉浦 三ツ太郎	永坂 仲右エ門
永坂 吉治郎	小澤 三ツ太郎	杉浦 苦造	杉浦 嘉吉
杉浦 治平	杉浦 治助	永坂 木與助	金原 徳平
杉浦 助太郎	永坂 兼次郎	古久根 喜蔵	鈴木 顕誠
石川 増太郎	石川 幸六	中根 善太	古久根 竹三郎
鈴木 文十	辻 幸七	杉浦 文左衛門	杉浦 万吉
永坂 梅治郎	永坂 豊次郎	古久根 末蔵	古久根 甚四郎
古久根 由太郎	杉浦 彦十	古久根 勇蔵	沢田 重次郎
古久根 よう	永坂 増蔵	杉浦 嘉平治	鈴木 五一郎
金原 與三次郎	亀島 千代吉	石川 伊三郎	金原 徳平
杉浦 文治郎	金原 徳三郎	澤田 政吉	杉浦 利三郎
石川 新吉	小澤 喜太郎	杉浦 豊吉	金原 徳助
井上 傳兵衛	鈴木 太四郎	杉浦 長三郎	齋藤 末松
永坂 和平	澤田 源蔵	鈴木 せう	古久根 政七
古久根 安之助	齋藤 幸助	永坂 品吉	永坂 七三郎
小林 弥兵衛	古久根 末吉	三島 松平	石川 常次

榊原 忠三郎	石川 善太郎	辻 吉平	石川 清十
永坂 吉太郎	生田 末吉	斎藤 太十	辻 要助
榊原 實五郎	辻 末松	斎藤 由太郎	杉浦 吉十
辻 小市	杉浦 七治郎	杉浦 長八	杉浦 九市
長田 福蔵	杉浦 百太郎	永坂 傳七	永坂 藤太郎
杉浦 為助	鈴木 戸一	榊原 源四郎	石川 市三郎
斎藤 新右エ門	永坂 岩吉	榊原 源治	榊原 喜代待
榊原 佛心	杉浦 廣吉	三島 代吉	榊原 弥太郎
榊原 助蔵	石河 久右エ門	黒田 由太郎	三嶋 勇三郎
榊原 吉松	三島 十蔵	石川 吉蔵	杉浦 市太郎
片山 徳太郎	石川 安次郎	石川 豊吉	鈴木 賢之助
清水 庄蔵	清水 彦松	小笠原 忠蔵	小笠原 やい
石川 金作	永坂 傳六	長崎 熊吉	斎藤 安吉
鈴木 忠吉	伊藤 万吉	永井 安太郎	長崎 平三郎
鈴木 善兵衛	榊原 源助	永坂 斧吉	生田 よし
長崎 卯助	三島 衆四郎	三島 衆吉	榊原 松五郎
榊原 市太郎	榊原 廣吉	杉浦 文蔵	清水 末太郎
永坂 豊助	小澤 豊吉	石川 重太郎	石川 政蔵
斎藤 亀助	小澤 亀次郎	石川 節蔵	永坂 助二郎
三嶋 初太郎	榊原 小三郎	石川 長三郎	石川 治助
杉浦 増太郎	杉浦 安蔵	鈴木 嘉平	永坂 嘉一郎
永坂 善次郎	榊原 房吉	榊原 文吉	梶川 佐太郎
小笠原 榮太郎	三島 幸二郎	清水 勇蔵	石川 林吉
生田 庄治郎	永坂 松右エ門	斎藤 伊助	芝田 甚平
石川 勘助	斎藤 藤四郎	杉浦 忠七	杉浦 辰次郎
小笠原 たみ	杉浦 熊蔵	清水 松三郎	小澤 菊太郎
斎藤 久平	杉浦 辰蔵	杉浦 弥曾八	辻 喜代十
永坂 太蔵	服部 金作	榊原 傳三郎	小笠原 甚平
永坂 喜代蔵	杉浦 十右エ門	榊原 駒三郎	永坂 伊三郎
鈴木 弥兵衛	杉浦 徳二郎	榊原 清一	永坂 栄太
黒田 吉太郎	榎本 小三郎	斎藤 梅次郎	辻 甚太郎
斎藤 曾四郎	鈴木 梶太郎	鈴木 十太郎	小笠原 市太郎
石川 寿作	石川 平吉	杉浦 吉助	杉浦 忠蔵
小澤 増太郎	石川 待治郎	石川 藤四郎	生田 吉十
永井 勇三郎	井上 弥吉	成瀬 佐吉	芝田 文太郎
金原 ゆう	石川 長松	鳥居 忠七	小澤 善助
井上 文蔵	三浦 八治郎	石川 のぶ	杉浦 和四郎
榊原 むめ	上野 太吉	石川 喜代十	榊原 安太郎

辻	仙次郎	石川	宗七	永井	金三郎	小笠原	與曾松
齋藤	しん	石川	忠太郎	石川	木與造	杉浦	常造
荒川	太郎吉	小澤	岩三郎	石川	千代吉	永坂	長造
石川	榮助	永坂	太蔵	清水	久蔵	榊原	榮八
石川	岩吉	生田	仙次郎	石川	十治郎	杉浦	初蔵
長田	善吉	榊原	清右エ門	小笠原	松二郎	石川	梅吉
榊原	長太	石川	しま	石川	利助	石川	ぶん
榊原	常助	榊原	清助	石川	久造	石川	亀太郎
金原	包助	榊原	安太郎	石川	曾太郎	杉浦	伊三郎
永坂	長造	長田	安太郎	榊原	由太郎	杉浦	待太郎
小笠原	常吉	齋藤	文吉	生田	安吉	石川	源治郎
小笠原	彦右エ門	三島	惣左エ門	黒田	卯吉	榊原	初三郎
永坂	藤助	永坂	梅五郎	杉浦	只吉	石川	光太郎
杉浦	文吉	榊原	圓次郎	黒田	太郎吉	石川	源七
杉浦	千待	三島	末吉	近藤	只三郎	石川	藤太郎
石川	磯七	石川	竹次郎	杉浦	すへ	石川	六次郎
杉浦	秋太郎	石川	文平	杉浦	善右エ門	清水	栄次郎
榊原	清十	小笠原	甚助	黒田	佐十	齋藤	亀次郎
石川	嘉七	永坂	曾次	齋藤	安蔵	石川	新造
齋藤	祐一郎	鈴木	嘉蔵	太田	弥平	鈴木	安蔵
榊原	文三郎	磯貝	與平	小笠原	太蔵	三島	甚太郎
長崎	長平	平岩	伊兵衛	加藤	孫八	鈴木	國松
齋藤	寅喜	榊原	兵七	辻	しげ	磯貝	庄蔵
杉浦	富蔵	石原	時治郎	酒井	嘉七	杉浦	梅吉
清水	彦助	長崎	熊治	榊原	與一	永坂	光四郎
齋藤	太一郎	長崎	利助	竹本	市松	榊原	與三右エ門
堅木原	友太郎	安藤	圓順	金原	かつ	榊原	喜平
金原	ます	榊原	米蔵	岡本	文治	鈴木	岩吉
平岩	幸左エ門	鈴木	甚助	鈴木	五市	三島	鍔之助
清水	治兵衛	鳥居	嘉四郎	鈴木	安右エ門	金原	梅吉
石川	嘉兵衛	石川	八十郎	小笠原	勘四郎	石川	文太郎
小澤	長三郎	小澤	安蔵	鳥居	萬二郎	小笠原	徳蔵
平岩	伊八	杉浦	小三郎	榊原	倉治郎	永坂	荷蔵
杉浦	彦兵衛	清水	為助	石川	莊五郎	生田	安太郎
石川	新之助	鈴木	春吉	石川	八津五郎	小島	甚三郎
長崎	石蔵	石川	忠四郎	永井	和兵衛	杉浦	要助
榊原	繁七	小澤	藤三郎	杉浦	伊三郎	石川	和助
鈴木	市太郎	石川	幸七	石川	こい	酒井	梅蔵

石川 徳兵衛	清水 亀次郎	十河 恵海	榊原 徳太郎
榊原 松五郎	鳥居 新蔵	小澤 七太郎	鳥居 貞蔵
生田 市助	長崎 よね	生田 政蔵	清水 竹二郎
長崎 松助	石川 梅吉	石川 市太郎	石川 新吉
磯貝 庄七	長崎 斧太郎	伊藤 嘉吉	生田 幸助
金原 甚三郎	永井 治郎平	小笠原 梅蔵	金原 柘太郎
金原 彦三郎	樹神 増右エ門	永井 米次郎	榊原 矢助
竹内 久三郎	小笠原 乙七	池田 文七	斎藤 じつ
斎藤 はなゑ	杉浦 宗八	小笠原 幸次郎	斎藤 半三郎
井上 竹次郎	杉浦 治平	斎藤 由平	小笠原 茂七
池田 泰助	池田 紋次郎	小笠原 篤太郎	鳥居 桂太郎
石川 久四郎	小笠原 関太郎	鈴木 茂三郎	三島 藤十
金原 乙助	斎藤 竹次郎	小笠原 増之助	池田 菊太郎
加藤 平治郎	斎藤 五市	小笠原 清徳	小笠原 由太郎
池田 文蔵	小笠原 松三郎	杉浦 光助	小笠原 十次郎
小笠原 よう	三浦 政太郎	榊原 まち	長崎 静治
池田 文平	小笠原 源吉	小笠原 只助	金原 松太郎
清水 初太郎	永坂 わき	小笠原 嘉一	斎藤 長吉
永井 糸四郎	斎藤 十松	杉浦 喜太郎	杉浦 重吉
神谷 万次郎	小笠原 和一	井上 弥兵衛	小笠原 駒次郎
三島 糸二郎	小笠原 善十	斎藤 勇七	名倉 清八
井上 松太郎	金原 きん	斎藤 市太郎	井上 金作
井上 弥七	小笠原 末吉	井上 源助	小笠原 桂次郎
井上 梅次郎	井上 源造	杉浦 竹十	杉浦 茂十
杉浦 徳右エ門	杉浦 惣八	斎藤 新平	鳥居 利七
永井 糸三郎	小笠原 曾助	小笠原 冨十	杉浦 末吉
杉浦 兵七	鳥居 駒吉	小笠原 重助	杉浦 林四郎
榊原 惣八	生田 重治郎	野村 栄七	生田 末次郎
神谷 政七	榊原 惣七	榊原 和吉	小澤 和市
石川 仙次郎	杉浦 徳次郎	永井 安太郎	斎藤 忠太郎
岡田 仙七	鈴木 熊吉	小笠原 勘十	小笠原 由太郎
永坂 千太郎	小笠原 角次郎	小笠原 太十	杉浦 仙助
杉浦 佐一郎	小笠原 和三郎	小笠原 忠四郎	名倉 松太郎
榊原 初太郎	鶴岡 悦二郎	河内 とみ	石川 冷助
鳥居 弥市	斎藤 末吉	小笠原 仙太郎	杉浦 八平
小野木 吉次郎	杉浦 九右エ門	小笠原 吉太郎	平岩 甚平
斎藤 仙太郎	小笠原 その	小笠原 由太郎	斎藤 松蔵
小笠原 文七	小笠原 弥三左エ門	榊原 治郎吉	杉浦 林助



杉浦 松太郎	杉浦 仙次郎	小澤 末吉	斎藤 きぬ
石川 善造	鳥居 吉三郎	名倉 吉右エ門	杉浦 初太郎
榊原 常蔵	榊原 太郎吉	鳥居 善太郎	永井 定吉
小笠原 伊平	永井 文兵衛	榊原 桂三郎	杉浦 茂三郎
池田 武兵衛	杉浦 長四郎	杉浦 松四郎	小笠原 安太郎
鳥居 甚右エ門	生田 新十	長田 新七	杉浦 周蔵
池田 久吉	斎藤 つぎ	榊原 繁蔵	小笠原 仙太郎
小笠原 矢三郎	小笠原 文八	金原 伊平	小笠原 七五郎
小笠原 七助	長田 松五郎	高橋 清太郎	生田 ちさ
鳥居 佐吉	多田 甚太郎	杉浦 はる	小笠原 弥七
小笠原 由太郎	深見 安次郎	小笠原 新造	多田 藤太郎
小笠原 梅吉	多田 勇二郎	小笠原 元吉	金原 弥吉
斎藤 新六	斎藤 由太郎	小笠原 磯右エ門	永井 末吉
小笠原 半兵衛	斎藤 重次郎	杉浦 新次郎	小笠原 文太郎
小笠原 文蔵	小笠原 清右エ門	小笠原 武右エ門	斎藤 七五郎
長田 角太郎	新實 安太郎	長田 半十	杉浦 半左エ門
長田 七六	國松 みし	小笠原 梅次郎	小笠原 助七
小笠原 文四郎	浅田 太市	小笠原 源二郎	小笠原 源兵衛
多田 重治郎	斎藤 助八	小笠原 亀次郎	永坂 初太郎
川口 金次郎	小笠原 久蔵	小笠原 文吉	小笠原 清次郎
小笠原 徳次郎	小笠原 曾平	小笠原 仙次郎	小笠原 梅吉
杉浦 いさ	杉浦 吉蔵	小笠原 藤之助	小笠原 弥助
斎藤 新平	斎藤 與助	鈴木 はつ	小笠原 仙之助
小笠原 新平	小笠原 松三郎	小笠原 新蔵	小笠原 末松
小笠原 六右エ門	小笠原 文八	小笠原 源助	小笠原 じゅん
鳥居 惣次郎	生田 徳太郎	生田 熊太郎	生田 つげ
榊原 庄五郎	生田 七太郎	生田 吉治郎	山田 辰次郎
生田 三與吉	生田 與吉	生田 関蔵	石川 源之助
生田 悦太郎	生田 卓準	小田 新助	生田 まち
酒井 友八	生田 久四郎	石川 吉三郎	生田 忠三郎
生田 良円	岡本 忠八	杉浦 民造	石川 勘四郎
生田 實蔵	生田 傳右エ門	生田 市太郎	生田 浄念
生田 仁右エ門	生田 千次郎	清水 兼助	生田 友蔵
石川 亥太郎	生田 石太郎	生田 和平	生田 國太郎
生田 喜平	石川 長松	石川 安兵衛	生田 徳三郎
生田 京次郎	大竹 治平	大竹 由三郎	岡本 與三郎
生田 甚平	生田 文四郎	岡本 重太郎	生田 清兵衛
石川 富作	石川 篠吉	大竹 彦八	生田 梅次郎

生田 万作	角谷 助太郎	生田 市三郎	生田 吉兵衛
生田 八治郎	生田 為助	石川 勘三郎	石川 善助
生田 藤兵衛	山田 惣助	生田 勝右エ門	大竹 鍊三郎
生田 安右エ門	生田 仙吉	生田 弥七	石川 半十
石川 常四郎	石川 茂七	石川 國太郎	多田 甚助
小笠原 しやう	多田 善太郎		

合計 1, 0 5 4 名